

旭化成が3年ぶり8度目  
女子は三井住友海上が初優勝

厚生労働大臣杯争奪第52回全日本実業柔道団体対抗大会は6月8～9日の両日、長野市のホワイトリングに男子93、女子14、計107チームを集めて開催された。この会場は長野オリンピックでフィギュアスケートとショートトラックスピードスケートが行われたところであり、それ以来の大きなスポーツイベントの開催で大いに盛り上がった。

開会式恒例の年間最優秀選手表彰には、平成13年度永野重雄杯がミュンヘン世界選手権大会100kg級金メダリストの井上康生5段（総合警備保障）に、宮崎輝杯が同じく

世界選手権大会70kg級金メダリストの上野雅恵3段（三井住友海上火災保険）に贈られた。

初日は男子第三部と女子第一部が行われた。男子は國學院院友柔道クラブが3-1で了徳寺学園を下し初優勝、女子は三井住友海上火災保険が1-0でコマツの3連覇を阻止し、13年目にして悲願の初優勝を達成した。

最終日は男子第一部で旭化成が3-1と日本中央競馬会に圧勝して3年ぶり8度目の王座に返り咲いた。前年の覇者で全日本チャンピオンの井上康生5段

を擁する総合警備保障は初戦で惜敗し、早々に姿を消した。

同第二部は平成管財がセコムを2-1で



選手宣誓をする上水研一朗選手（総合警備保障）



開会式であいさつする山口信夫会長

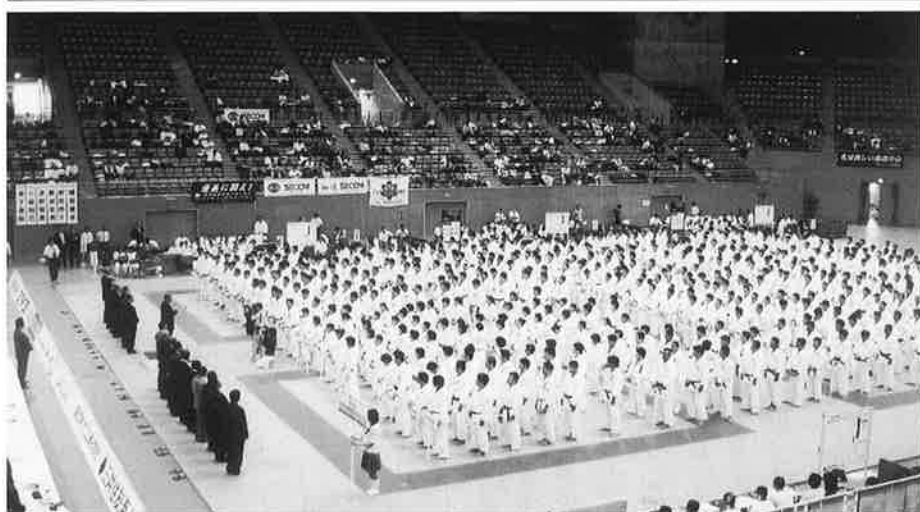


開会式であいさつする鷺澤長野市長

破り3年連続の優勝。

女子第二部はセコムと日水製薬の初対決となり、セコムが1-0で初制覇した。

なお、来年の第53回大会は再び西日本に戻り、大阪府堺市金岡公園体育館で開催される。



開会式

# 男子 第一部

## 旭化成 3年ぶり8度目の奪還 紙一重の争奪戦に総力発揮

前年度覇者の総合警備保障、名門・旭化成、安定した実力をつけてきた日本道路公団、日本中央競馬会の争いかと思われた中に、シドニーオリンピック100kg超級3位のタメルラン・トメノフ(25・ロシア)が急遽、平成管財の選手として登録され、波乱の様相を呈してきた。



下出がっちり押え王座奪回

また、組み合わせによっては、井上康生対トメノフという超豪華カードが実現するとあって、観客も報道陣も大いに期待した。しかし、期待はもろくもくずれ、両チームとも2回戦で敗退した。先に総合警備保障Aが日本中央競馬会に敗れた。先鋒近野が下下に一本負けしたあと、次鋒井上が猿渡を取れず、4試合すべて引き分けとなったため。

一方の平成管財は日本道路公団に有効と警告で2点先取され、中堅トメノフが竹下から有効を奪ったものの、秋山・小齋は分け、大將筒井が懸命に攻め有効勝ち。ポイント届かず②―②の内容負けを喫した。

昨年は既に旭化成から篠原信一5段が転職で消えていた。今年は新日鐵から吉田秀彦6段と養父直人5段が身を引いている。実業団も戦国時代に差しかかり、波乱風雲を呼ぶ。

——その決勝戦。旭化成・斎藤と日本中央競馬会・大下の先鋒戦は、互いに緊張して技が出ず、4分間の試合時間なのに早くも残り2分30秒には双方注意から双方警告へと反則が累積される。大下が初めて左足払いで効果を挙げたのもつかの間、両副審否定で取り消し、引き分けのスタート。

次鋒戦に移って相原―藤本。これは激しくなって藤本の支え釣り込みに相原横倒しとなって効果。だが、相原も大内刈りで効果を取り返し、五分にこぎつける。左内股と左大外刈りを掛け合い、この積極さのゆえに相原再び大内刈りにいけば、藤本これをうまく返して袈裟固めに押さえ、日本中

中央競馬会の先取点。

しかし、中堅戦からは旭化成がストレートに3連勝を決めた。日本中央競馬会ベテラン30歳の松本は、闘志あふれる旭化成・高橋に一方的に攻められ、指導・注意。さらに松本の捨て身技を高橋が余裕ですかし効果。3分30秒にも大内刈り有効を奪い、1―1とした。

副將戦、旭化成の村元は気迫充実してどんどん前へ出る。35秒で双方指導も、あとは日本中央競馬会・向川に2分20秒警告。それでも向川に反撃の一手なく、やむなく村元注意―向川反則負けで旭化成2―1とリードする。



第一部優勝の旭化成チーム

大將戦は、32歳ベテランの旭化成・下出と過去に全日本2位の実績を持つ日本中央競馬会・大瀧の戦い。しかし、現時点での力の差は歴然。下出、大内刈りで有効を奪い、そのまま後ろ袈裟固めに押える。しかし、大瀧ここは何とか逃れる。次には大瀧の出ばなを再び大内刈り効果から今度は袈裟固めでがっちり押え込み、完璧な一本勝ちをおさめた。この瞬間に旭化成の3年ぶりの王座奪回となった。

### ■優勝監督コメント

旭化成 中村佳央

監督2年目での優勝、こんなにうれしいことはない。これまで世界選手権やオリンピックに出たが、今日はまた格別。団体戦はチームの総合的な力で勝たねばならない。戦力を温存するため自分も出て役に立てればと思いい、京葉ガス戦だけ出た。(先鋒戦で警告勝ち)あの反則を取るのには国際試合の経験が生きた。

去年2位だったので勝ちたい意欲を皆に持たせて練習してきた。前の方で軽量級の2人が体重差のある相手をよくしのいで頑張ってくれた。紙一重の厳しい場面をどう戦うか、自分の経験も伝え、選手がわかってくれたのがうれしい。



# 男子第二部

## 平成管財が3年連続のV バンデギーストは優秀選手に

優勝候補の最右翼と見られた了徳寺学園が一回戦で旭化成に敗退。その旭化成も二回戦でセコムに敗れ、決勝にはセコムと3年連続の平成管財が勝ち上がった。

先鋒の平成管財・谷本対セコム・古田は双方に指導から注意が与えられた。谷本右内股、古田左内股を出すも有効なポイントなく引き分け。

続く次鋒戦、平成管財は欧州選手権無差別級王者のバンデギースト(27・オランダ)が登場。軽量のセコム・齋藤も必死にねばるが、右内股で技ありを奪われ、そのまものがっしり横四方に固められて合わせ技一本。中堅戦は双方注意からラスト1分を切って平成管財・水口の左大外刈り、払い巻込みにセコム・中田も左大内刈り、大外刈りで渡り合って引き分け。

副将戦は平成管財・森川対セコム・丸山。両者攻め手を欠き1分過ぎに指導、2分過ぎに注意が与えられる。この停滞感を破ったのは森川の内股から大内刈りに入った効果だった。丸山も内股、巴投げなどで懸命に追い上げたが、森川逃げ切る。この時点で平成管財の3連覇達成。

セコムも大将戦で意地を見せる。セコム・本郷が小外刈りで攻めると、平成管財・小林うまく大内刈りに切り返して有効を奪う。しかし、本郷は気迫あふれる攻めを見せて、まず効果を奪い、防御になった小林に注意が与えられる。さらに小林に警告が与えられ、挽回せんと左大外刈りにいけば本郷これをうまく返して技あり、合わせて総合勝ちでセコム一矢を報いた。

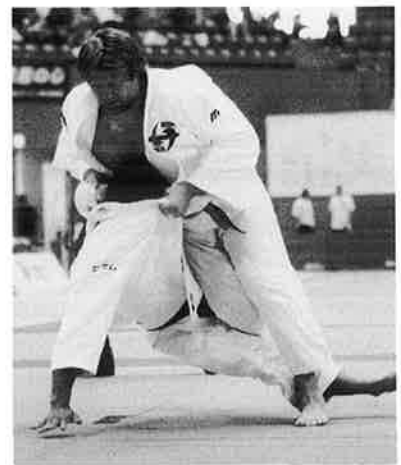
### 優勝監督コメント

平成管財 鳥海又五郎

第一部で優勝するのは難かしいですね。よくわかった。うちのチームの実力は、あんなものですよ。ただ、目標が来年に残ったので、ますます気力が湧いてきたのも事実です。これから若い戦力を採用して補強し、こつこつ育てる。来年は第一部にA B 2チームを繰り出すわけだけど、外国人を2人は起用する。この考えは変わらない。きょうの第二部は良く頑張ったと思う。引き分け狙いでなく、全員が一本取りに行く柔道を目指してきたから――。



第二部優勝の平成管財チーム



優勝に貢献したバンデギースト選手

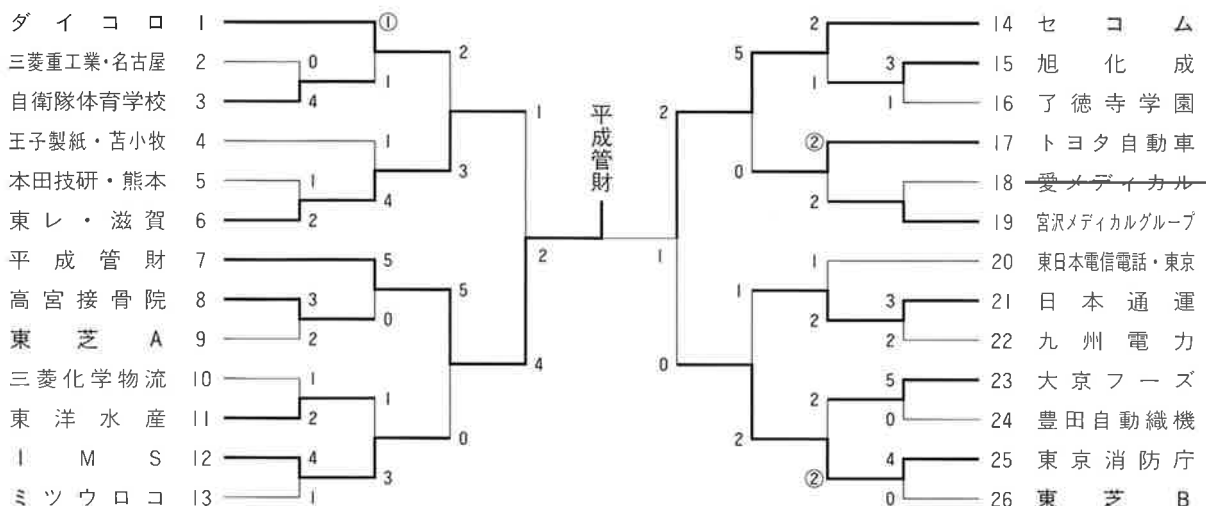
### 【決 勝】

平成管財	2	—	1	セ	コ	ム
谷本竜孝	3段	—	×	—	古田昌直	4段
○バンデギースト	3段	合	わ	せ	齋藤純平	3段
水口清吾	3段	—	×	—	中田善久	5段
⊖森川修次	3段	優	勢	勝	丸山昌孝	3段
小林広幸	4段	総	合	勝	本郷至道	3段○

### 男子第二部成績表

優勝	平成管財	第3位	東レ・滋賀
準優勝	セコム	第3位	東京消防庁

以上の4チームは次年度第一部に昇格する



# 男子 第三部

## 國學院院友柔道クラブ初V 新鋭の了徳寺学園を破る

前年初出場初Vの了徳寺学園は、第二部に昇格し、第三部は軽量級の選手を軸に編成してきた。

先鋒に監督で千軍万馬の山田利彦が登場した。國學院院友柔道クラブ・大久保に開始早々の小内刈りで技ありを奪い、そのまま横四方固めで押えて合わせ技一本。しかし、了徳寺学園の攻勢はここまで。

次鋒戦は國學院院友柔道クラブの雑賀がテクニシャン小室の飛び十字や巴投げの奇襲をよく見て防ぎ、決して相手のペースにはまらなかつた。チャンス狙いの小室には指導、注意。得意の寝姿勢で袖車に誘いつくても雑賀が乗つてこない。立ち技では雑賀の右内股をかわずのがやっと。このまま時間切れとなる。

中堅戦は引き分け。國學院院友クラブのエース・坂本は腰痛で体調不十分。了徳寺学園の新鋭・西野に良いところなく、双方注意で引き分ける。

副将戦は國學院院友クラブ・小野寺が了徳寺学園・松本に対し、会心の右内股一本で決め、2-1とリードし大将戦にタッチした。波に乗る國學院院友クラブは、長久保が積極的に攻撃に出て、了徳寺学園・泉澤に対し豪快な大腰を決めて一本勝ち。3-1でうれしい初優勝を決めた。

### 優勝監督コメント

國學院院友柔道クラブ 山田 宏輝

廣井武司監督が所用で来れなくて、代理監督で優勝できてホッとしています。坂本以外は若手のバリバリで、後半勝負になれば活躍できると、来る前から優勝を確信していました。廣井監督からも「自信を持ってやってこい」と励まされていました。

### 男子第三部成績表

優 勝	國學院院友柔道クラブ
準優勝	了徳寺学園
第3位	十 全 会 A
第3位	日 本 通 運

以上の4チームは次年度第二部に昇格する



第三部優勝の國學院院友柔道クラブチーム



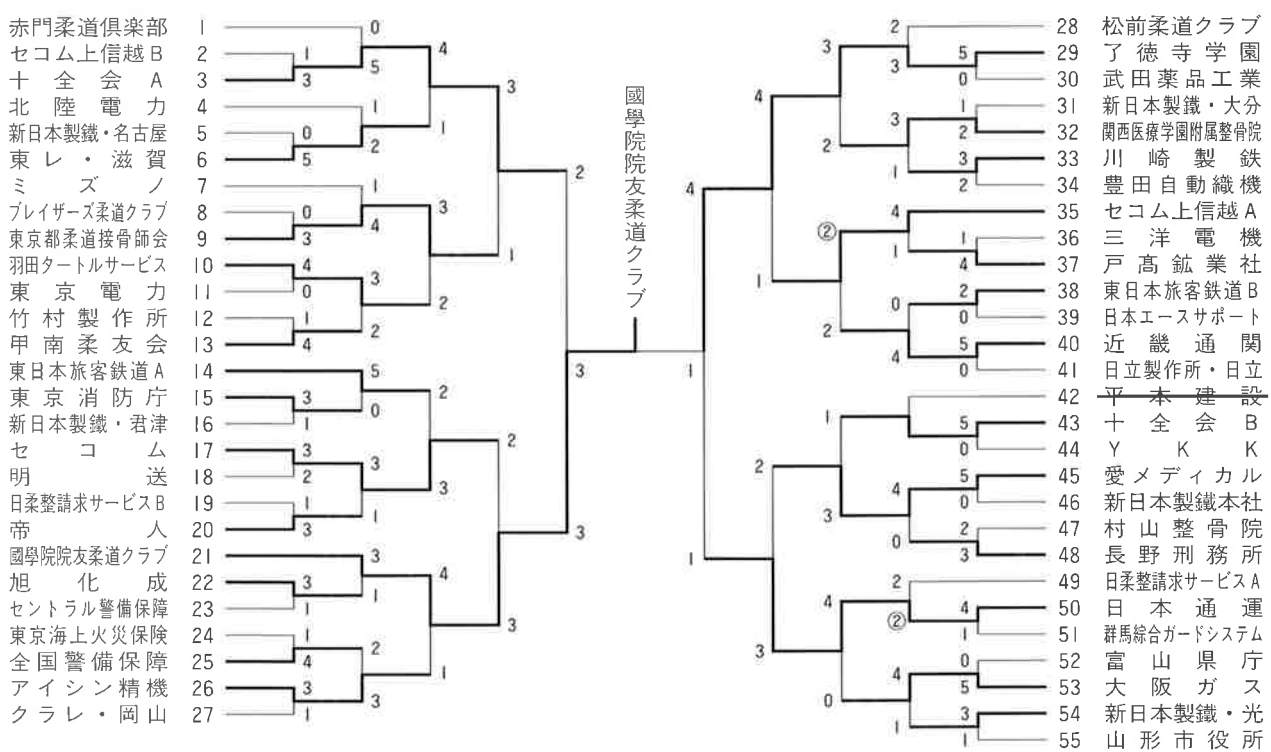
小野寺の内股見事に決まる

### 【決 勝】

國學院院友柔道クラブ	3	-	1	了徳寺学園
大久保之之	2段	合わせ技	山田利彦	5段〇
⊖雑賀俊行	3段	優勢勝ち	小室宏二	4段
坂本大記	4段	—×—	西野公章	3段
〇小野寺政浩	2段	内 股	松永将高	3段
〇長久保直樹	3段	大 腰	泉澤 勝	3段

### 【準 決 勝】

十 全 会 A	2	-	3	國學院院友柔道クラブ
了徳寺学園	4	-	1	日 本 通 運



# 女子第一部

## 沖縄大会から13年目の宿願 三井住友海上が涙の初V

4企業の総当たり戦。三井住友海上とコマツが全勝対決だ。両チームの勝ち点内容は、三井住友海上4勝5分け1失点、コマツ6勝1分け3失点、引き分けの場合はコマツが優勝する。

先鋒戦、三井住友海上は世界選手権で活躍した横澤、コマツは山田。互いに秘術を尽くして戦う。横澤の大外刈り、袖釣り込み腰、背負い投げに対して山田も体落とし、ひざ車で応戦。お互い明確なポイントを取らず、双方警告で引き分け。

次鋒戦も岩藤と窪田が双方注意の後、果敢に攻め合うが優勢つかずの引き分け。中堅戦の貝山対一見も結着つかず引き分けて、勝負の行方は副将・大将の双肩にゆだねられることとなった。

ここで期待を一身に集めて登場したのが三井住友海上の上野妹だ。コマツもベテラン天尾とあって、見る者いづれも息をのむ緊張感がみなぎる。上野が左体落とし、大外刈りで猛攻を始め、天尾は守り防ぎ展開。残り24秒双方注意の後、上野の左大外刈りは効果かと思われたがポイントにはならず引き分け。勝負の行方は大将戦にもつれこんだ。

三井住友海上は世界チャンピオンの上野に対するコマツは進境著しい一クラス上の松崎。開始33秒双方指導、1分6秒注意、1分40秒警告と息詰まる経過。このあと上野が積極的になる。大外刈り、体落とし、大内刈りの連続。残り1分19秒、執念の大外刈りを放てば見事に決まり一本。勝たねば負ける三井住友海上の意気込みに対し、引

き分ければ勝てるコマツ。そんな消極さがチラリと垣間見えた大将戦。悲願の初優勝に涙、涙の三井住友海上だった。

### 優勝監督コメント

三井住友海上火災保険 柳澤 久

前の方は向こうの方が強い。けど前で頑張れば必ず後ろで取れる。引き分けでは負けるから、どんな形でも勝てと指示した。松崎も強い。アジアとワールドカップの代表だ。これに一本取った上野姉は、さすが世界チャンピオンです。上野は自分で副将(70kg以下)ではなく、大将(体重無差別)にエントリーを志願してきた。うちは13年前の第40回沖縄大会に故神永先生に頼んで初めて女子の部を作ってもらい(3人制)ミキハウスさんらといっしょに出て以来、2位5回、3位5回。オリンピックや世界選手権で金メダルを取りながら、どうしても実業団では勝てなかった。今回は三井と住友とが合併してから初めてだし、先にマラソンが取ってるし、どうしても取りたかった優勝です。私の郷里(篠ノ井)でもあるし、うれしい。



初優勝を決めた上野の大外刈



女子第一部優勝の三井住友海上火災保険チーム

### 【優勝までの対戦成績】

#### 第1試合

三井住友海上火災保険	2 - 1	ダイコロ
茂木 仙子 3段	優勢勝ち	海下 澄枝 3段
○岩 藤 理 恵 初段	内 股	植田 庸子 3段
◎貝 山 仁 美 3段	優勢勝ち	小坂 知巳 2段
上野 順 恵 初段	—×—	柳田 恭子 3段
吉田 亜沙美 初段	—×—	難 波 友 美 2段

#### 第2試合

三井住友海上火災保険	2 - 0	ミキハウス
◎横 澤 由 貴 2段	優勢勝ち	鍛 冶 宏 美 3段
岩 藤 理 恵 初段	—×—	岡 崎 綾 子 2段
貝 山 仁 美 3段	—×—	植田 裕子 3段
○上野 順 恵 初段	合わせ技	古 賀 幸 恵 2段
上野 雅 恵 3段	—×—	佐 藤 和 枝 2段

#### 第3試合

三井住友海上火災保険	1 - 0	コ マ ツ
横 澤 由 貴 2段	—×—	山田真由美 2段
岩 藤 理 恵 初段	—×—	窪 田 雅 子 2段
貝 山 仁 美 3段	—×—	一 見 理 沙 2段
上野 順 恵 初段	—×—	天 尾 美 貴 2段
○上野 雅 恵 3段	大 外 刈	松 崎 み ず ほ 2段

### 女子第一部成績表 <リーグ戦>

	ダイコロ	三井住友海上火災保険	コ マ ツ	ミキハウス	勝 0勝0敗0分	負 0勝0敗0分	順 位
ダイコロ	△	△	△	△	0勝3敗		4 位
三井住友海上火災	○	△	○	○	3勝0敗		優 勝
コ マ ツ	○	△	○	○	2勝1敗		2 位
ミキハウス	○	△	△	△	1勝2敗		3 位



# 女子第二部

## 前年3位セコムが初優勝 大将戦で大型中野が殊勲

棄権2チームが出たのは寂しいが、決勝のセコム―日本製薬は前年の3位同士。どちらも初優勝をかけて内容を盛り上げた。先鋒戦はセコム・冨田―日本製薬は西。互いに右組みで機をうかがった。開始31秒に双方指導。しかし、このあとから西が大外刈り、背負い投げ、体落とし、大内刈りで激しく前へ出る。先頭バッターの責任は西にある。どうしても取りたい西はタックルまで交えて突っ込んで来る。冨田は返し技で応じ、互いに以後の消極反則は一度も受けずに戦った。西がポイントをあげられなかったのは日本製薬にとって悔恨となつたに違いない。

中堅戦も好試合となつた。開始早々に日本製薬の益子が右内股から寝技に入り、あわやと思わせる場面も見られた。残り1分30秒双方指導、46秒双方注意。そのあと再び益子の右内股が効果となり、このままブザーか？と思われたが、齋藤もさるもので、残り17秒、益子の足取りを小外で返し、効果でタイとしたのはうならせた。

決着は大将戦。セコム158cm、110kgの中野に、日本製薬158cm、63kgの坂中では体格に差があり過ぎた。中野は最初から前に出て坂中が注意まで取られる。坂中の背負いは潰される。2分12秒、ついに中野の背負投一本が決まった。

### 優勝監督コメント

セコム 澤 幸正

今年優勝を狙っていた。前2人のところがどうなるか、きびしい決勝戦はある程度考えていたが、引き分けてくれれば必ず大将で取るという作戦の通りになった。各選手がそれぞれ自分の仕事をしっかりとこなしてくれたのが勝因。私は2年間コーチを務め、監督に就任したばかり。優勝できて本当によかった。ホッとしている。



女子第二部優勝のセコムチーム

### 【準決勝】

セコム 2-0	タカメディカルA
冨田幸代 3段	横澤沙恵 2段
○齋藤久美子 2段	吉留奈穂 2段
○中野公洋子 3段	山田千恵美 2段
	優勢勝ち
西日本警備保障 0-3	日本製薬
児玉久美 初段	西せつ子 2段
前田こずえ 初段	○益子里美 2段
中尾春菜 初段	坂中基美 2段
	縦四方固

### 【決勝】

セコム 1-0	日本製薬
冨田幸代 3段	西せつ子 2段
齋藤久美子 2段	益子里美 2段
○中野公洋子 3段	坂中基美 2段
	背負投

### 女子第二部成績表

優勝	セコム
準優勝	日本製薬
第3位	タカメディカルA
第3位	西日本警備保障

セコム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
肥後銀行										
タカメディカルA										
十全会										
愛メディカル										
西日本警備保障										
セコム上信越										
日本製薬										
タカメディカルB										
関西医療学園附属整骨院										



中野の背負投が見事に決まる

### 「定時総会」開催される

第41回定時総会及び平成14年度理事会は、平成14年6月7日16時30分からホワイティング会議室で開催され、第1号議案から第5号議案について、満場一致で承認された。

- 第1号議案 平成13年度事業報告
- 第2号議案 平成13年度収入支出決算
- 第3号議案 平成14年度事業計画案
- 第4号議案 平成14年度収入支出予算案
- 第5号議案 平成14年度役員改選の件

# 第52回全日本実業柔道団体対抗大会歓迎レセプション開催

6月8日(土)18時30分よりホテル国際21において、第52回全日本実業柔道団体対抗大会歓迎レセプションが盛大に開催された。

当日は、(勅)全日本柔道連盟の嘉納会長や地元長野市の鷲澤市長をはじめ、多数のご来賓の方々や、連盟役員、並びに地元関係者など総勢200余名の参加があり、大会の成功を期するにふさわしい盛り上がりを見せた。

レセプションは山口会長の挨拶に始まり、瀬良長野県教育次長と石田県議会議員の歓迎のご挨拶の後、青木長野商工会議所副会頭の乾杯の音頭で祝宴に入った。祝宴の中では、地元の実田勝ち闘太鼓のアトラクションなどがあり、和やかな雰囲気の後には笹井長野県柔道連盟会長の発声による万歳三唱でお開きとなった。



笹井長野県柔道連盟会長のあいさつ



山口会長のあいさつ



笹井長野県柔道連盟会長の音頭で万歳三唱

# 「柔道ルネッサンス」活動をPR

(勅)講道館と(勅)全日本柔道連盟は、柔道を通じての人間教育の場として「柔道ルネッサンス」活動を展開しています。

その一貫として、各試合会場で観客や選手に対してさまざまな呼びかけを行っています。本大会では8日(土)に松岡義之氏(コマツ監督)、9日(日)に中村行成氏(旭化成)が行いました。

松岡氏は、1984年ロサンゼルスオリンピック65kg級のコメダリストで、現在女子柔道のトップチームであるコマツの監督を務められています。中村氏は、ご存知の通り中村三兄弟の次男で、1993年ハミルトン世界選手権大会65kg級のコメダリスト、1996年アトランタオリンピック65kg級の銀メダリストであります。本年4月に行われた全日本選抜体重別選手権大会を最後に現役を引退され、1年間の留学後指導者の道を歩まれます。

両氏ともスピーチでは、マナーや礼儀あるいはクリーンアップについて訴えられ、観客から大きな拍手を浴びていました。



松岡義之氏  
(コマツ)



中村行成氏  
(旭化成)

発行日 2002年7月15日  
 発行 全日本実業柔道連盟  
 取材協力 事務局長 郷田博史  
 印刷 ジャーナリスト 宮澤正幸  
 ダイコロ株式会社